

いなむら市長の

「ひと咲き まち咲き あまがさき」

10月24日(火) 放送分

放送時間 8:00～、12:45～、16:00～

再放送 10/26(木) 8:00～、12:45～、16:00～

10/28(土)、10/29(日) 17:00～

テーマ 「休眠衣料を世界へ送ろう」のとりくみ  
(園田学園高等学校放送部)

市長 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。今回も、元気いっぱい、市内の高校生  
の皆さんによる番組をお楽しみいただきましょう。それではさっそくスタートです。  
どうぞ！

<2人> みなさんこんにちは！

<下井田> 園田学園高等学校放送部2年生の 下井田(しもいだ) みらい です。

<米谷> 同じく放送部2年生の 米谷(よねたに) 美咲 です。

<2人> よろしく願いいたします！

<下井田> さて。この番組に今年も出演させていただく私たち園田学園高等学校放送部です  
が。

<米谷> 今日はですね、毎年この時期に園田学園で実施される、今年でなんと14年目を迎え  
ました「休眠衣料を世界へ送ろう」のとりくみと、今年度の実施に関する情報をお伝え  
しようと思います。

<下井田> 園田学園では毎年の恒例行事となっている「休眠衣料を世界へ送ろう」ですが・・・  
みなさん、休眠衣料って言葉わかりますか？

<米谷> 漢字では「休んで眠っている衣服」と書きまして・・・

<下井田> そうなんです。よくお医者さんとか病院の「医療」と聞き間違えられますが、そう  
ではありません。衣服の「衣料」です。

<米谷> もう飽きた、流行を過ぎた、サイズが合わなくなった・・・さまざまな理由でダンスや押し入れに眠っている衣料が、みなさんのご家庭にもあつたりしますよね？そういった衣料を、学校内部だけではなく、地域の方々からもご提供いただいて、NPO法人を通じて発展途上国に送り届ける・・・という活動のことです。

<下井田> オープニングでも言いましたが、今年でこのとりくみは14年目を迎えました。それでは、この「休眠衣料を世界へ送ろう」について、とりくみが始まった経緯やその後の歴史がどのようなものであったのかを、生徒会顧問である津 眞理子先生にインタビューしてまいりました。

### 【インタビュー】

<下井田> 生徒会顧問の津 眞理子先生です。よろしくお願いします。

<津> よろしくお願いします。

<下井田> それでは最初に、休眠衣料活動が始まった経緯について教えていただけますか？

<津> はい、休眠衣料活動は、生徒会としての活動は今年で11年目を迎えます。その前は、実行委員会形式でやってきました。しかし、この活動も地域や生徒にも広まってきたので生徒会が中心になってやろうということで、11年前からは生徒会とC・ドリームの会というボランティアの団体と協力して、現在まで一緒にとりくみをしてきています。

<下井田> そうなんですね、わかりました。では、先生自身が休眠衣料の活動を通して学んだことや感じたことは何かありますか？

<津> はい、実は私もこの園田学園高等学校出身なんです。生徒会に入っていたので、この休眠衣料活動をやってきました。ボランティアとは大事なことだと思っていますが、実際にやってみないと大変さや楽しさはわかりません。先生になってまたボランティアについて考え、次は先生としてボランティアの大切さを伝えていかなければと思うようになりました。休眠衣料活動で一番強く感じたことは、人のあたたかさです。休みの日にもかかわらず、ボランティアとして手伝ってくれる生徒の皆さんや、たくさんの服を持ってきてくださる地域の方々、遠いところは郵送で送ってきてくれます。寒い中お疲れ様、といったあたたかい声もあります。その思いをガーナやウガンダといった難民の方々に衣服とともに送りたいと考えています。

<下井田> では最後に、校外の方に向けて何か一言お願いします。

<津> はい、今年は10月28日土曜日、29日日曜日の二日間やっています。詳しくは園田学園のホームページにも掲載しています。ぜひ関心を持っていただけたらありがたいです。そして、もっと休眠衣料活動の輪が広がってほしいと願っています。

<下井田> ありがとうございます。

<下井田> いかがでしたか？

<米谷> 小さなとりくみがやがて地域の方々にも浸透して、14年も続いてきたのには、とても驚きました。

<下井田> ちなみに米谷さん、昨年度の様子はどんな感じでしたか？

<米谷> 昨年度は、地域の方々をはじめ、世帯の方々が来校してくださり、集まった衣料は2万790着、ダンボールにして実に744箱になりました。

<下井田> 744箱！すごいですね～！

<米谷> しかしですね。たいへんなのはその輸送費なんです。ダンボール一箱を送るのにも、1,500円程度の輸送費がかかります。なので、衣料と同時に輸送費のカンパもみなさんにご協力を呼びかけています。昨年はおかげさまで23万3,735円ものカンパをご提供いただきました。もちろんこの活動には、地域の方々だけではなく、園田学園の教職員や生徒もたくさん関わっています。

<下井田> そうなんですね！

<米谷> 今年は10月28日の土曜日、29日の日曜日に行われます。下井田さん、ぜひ参加してください。

<下井田> わかりました。それではここで、昨年度の「休眠衣料を世界へ送ろう」の企画・運営に携わってきた木元麻衣さんからのメッセージを紹介させていただきます。

(木元さんメッセージの読み上げ)

<下井田> こんにちは。生徒会長の木元麻衣です。世界には衣料が足りず困っている方がたくさんいます。そんな人達の役に少しでも立ちたいという思いから、園田学園では「休眠衣料を世界へ」のとりくみを行っています。活動を通じて、私は、衣料の大切さだけでなく、自らの意志でさまざまなことに目を向け、行動する事を学びました。そこには、自分ができる事で自分以外の人の力になりたいという思いがあり、その思いが衣料と共に届いて、人と人とのつながりが生まれると感じました。私達の活動を多くの方々に知ってもらい、協力してくださる方が1人でも増えるよう、私達も努力し、これからも「休眠衣料を世界へ」のとりくみを続けて行きたいと思います。

(メッセージの読み上げ終わり)

<下井田> 米谷さん、どう思いましたか？

<米谷> 生徒会長として活動してきた木元さんだからこそ、強い気持ちが伝わってきましたね。

<下井田> そうですねえ。私自身2年生ですが休眠衣料についてまだまだわかっていなかった部分があったなあと感じました。私と同じように「休眠衣料」という名前しか知らないという生徒も多いと思います。こうやってラジオで校外の方々に活動を知ってもらうことももちろん大切ですが、まずは校内に、もっと協力を呼びかけることが必要ですね。

<米谷> 私たちもあらためて、クラスに呼びかけていこうと思いました。木元さん、メッセージありがとうございました。

<下井田> ありがとうございました。

<米谷> さて下井田さん。今日は「休眠衣料を世界へ送ろう」のとりくみを紹介してきましたが、いかがでしたか？

<下井田> ただ着なくなった服を集めて発展途上国に送るだけでなく、その裏側には生徒会の皆さんの思いや苦勞、努力があって初めてこの「休眠衣料を世界へ送ろう」という活動ができているんだなあ実感しました。

<米谷> 初めて話を聞いたときは、単に服をダンボールに詰めて送る活動かと思っていました。しかし、実際に活動してみると、世界ではとても多くの方が、着るものにも困るような生活を送っていることがわかりました。この活動を通じて、世界中の困っている方々に、少しでも役立つことができたらと思えるようになりました。

<下井田> それでは最後に、2017年度「休眠衣料を世界へ送ろう」についてのご案内です。今年度は

10月28日 土曜日 午後1時半から午後4時までと、

10月29日 日曜日 午前10時から午後3時までの、2日間となっています。

収集場所は昨年度と変わって、両日とも園田学園中学校・高等学校西側校地南側新校舎正門となっています。

ただし、お願いしたいことがあります。衣料を提供していただく際、和服やベビー服、ベビー用品、布団、衣料小物、ネクタイ、ベルト、手袋、帽子は受け付けることができませんのでご注意ください。

<米谷> あらためまして、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

<下井田> それでは、お別れの時間となってしまいました。お送りしたのは、園田学園高等学校放送部2年生の 下井田 みらい と。

<米谷> 同じく放送部2年生の 米谷 美咲 でした。

<2人> それではみなさん。本日はありがとうございました！さようなら！

<市長> いかがでしたか？ それでは、次回の放送もお楽しみに！

以 上